

3月に開催 ピティナ・イベントレポート
ピティナ 40 周年事業

<レポート 1> 『ピティナ 40 周年記念ピアノコンチェルトの夕べ』

2007.3.28(水)サントリーホール

<レポート 2> 第 30 回ピティナ・ピアノコンペティション『入賞者記念コンサート』

2007.3.28(水)紀尾井ホール

<レポート 3> 『ピティナ合同連絡会』 レポート

2007.3.29(木)ホテルニューオータニ

『ピティナ 40 周年記念ピアノコンチェルトの夕べ』 開催

主催：社団法人全日本ピアノ指導者協会



2006年度、(社)全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)は創立40周年をむかえた。3月28日(水)夜、ピティナ40周年記念「ピアノコンチェルトの夕べ」と題して、ピティナが送り出した3名のソリストたちによるピアノ協奏曲の競演が行われた。サントリーホール大ホールには、全国津々浦々から駆けつけたピティナ会員、支部・ステーション・協力各社のほか、3人のソリストの人気を示すかのように一般のお客様も多数詰めかけ、大盛況のコンサートとなった。共演は、渡邊一正氏の指揮するNHK交響楽団。コンサートマスターには篠崎史紀氏など、日本を代表するソリスト級の演奏家たちがずらりと並び、素晴らしい演奏で若手を支え、コンサートを盛り上げた。



トップバッターは、紅一点の須藤梨菜さん(2005第2回福田靖子賞、2006ダブリン国際ピアノコンクール第5位)で、リスト：ピアノ協奏曲第1番。「お祝いのコンサートなので、喜びの気持ちが伝わるように弾こうと思いました。」という須藤さんの、真摯な音楽がホールを満たしてゆく。国際コンクールで数々の審査員を驚かせてきた鮮やかな技巧と、クリアで立ち上がりの良い音色で、このピアニスティックなコンチェルトを、すっきりと、けれど情熱的に弾ききり、見事にトップバッターの重責を果たした。



続いての登場は、ピティナ・ピアノコンペティションの「この5年」をもっとも象徴する存在といえる、金子一朗さん(2005特級グランプリ)。「ピティナのコンクールや催し物に出場し、多くのピアノの先生方と関わったこの4年間は、自分の音楽そのものを変えてしまうほどのインパクトだった。」と語る金子さん。その音楽には、2003年から特級とグランミュージック部門で腕を磨き、ステップ・セミナー・フェスティバル・公開レッスンなど、ピティナのあらゆる学習経験を昇華した、高い芸術性と知性が薫りたつ。真剣に音楽を学ぶ者に「プロ」も「素人」もない。ただそこに音楽があり、音楽を勉強したいと思う気持ちがあるだけ。そんな「グランミュージック」の魂を感じさせる感動的なラヴェルを披露した。

金子さんを高く評価し、フェスティバル実行委員や自ら運営する銀座ステップのアドバイザーに起用するなど親交の深い播本三恵子先生(ピティナ理事)と。楽屋にて。



休憩を挟んで最後に登場したのは、関本昌平さん(2003特級グランプリ、第1回福田靖子賞、2005ショパン国際ピアノコンクール第4位)。曲は、ピアノコンチェルトの最高峰、ラフマニノフの3番である。音の洪水のようなこの豪華絢爛な協奏曲にあっても、決して金属的にならず、それでいて輝きと芯のある「関本トーン」で、N響の音空間の中に、確かな存在感を刻んでいく。その音楽は、パリ音楽院のジャック・ルヴィエ先生が評したように、すでに「Good StudentではなくProfessional」の風格さえ漂わせ、ラフマニノフの長大で難解な作品に、自らの熱い思いを盛り込んだ。圧倒的な迫力のコーダも、一分の隙もない見事な技巧で弾ききると、熱狂した聴衆からブラボの声も飛んだ。

40年のピティナの歴史が生み出した、3人の個性溢れるピアニストたち。それを見守ったあたたかい聴衆。素晴らしいピアノコンチェルトの響きに包まれながら、次の5年、さらなる発展への誓いをそれぞれの心の中で新たにしたい一夜だった。

(ピティナホームページより転載)



『第 30 回ピティナ・ピアノコンペティション入賞者記念コンサート』 開催

主催：社団法人全日本ピアノ指導者協会

3月28日(水)～29日(木)の2日間、ピティナ創立40周年を記念して、入賞者記念コンサート、NHK交響楽団とのコンチエルトの夕べ、各種の合同連絡会が行われた。

28日(水)日中には、昨夏のコンペ入賞者たちが集う「第30回ピティナ・ピアノコンペティション入賞者記念コンサート」を開催。マチネ・ソワレの2部構成で、各級の金賞・銀賞受賞者計29組が思い思いの演奏を披露し、大きな拍手を浴びた。



2007年3月28日(水) 12:30マチネ部門 16:00ソワレ部門 会場：紀尾井ホール



40周年記念事業の一環として実施される今年は、プロのピアニストたちが数多くの名演を繰り広げてきた紀尾井ホールでの開催。「あこがれの上原彩子さんや鈴木弘尚さんの演奏を聴いたのが、この紀尾井ホールでした。今日このホールで弾くことができとても嬉しいです」とグランプリの前山仁美さんも響きの良い会場に美しい音色を響かせる。

前山仁美さん(特級グランプリ)

ラフマニノフ：ピアノソナタ第2番変ロ短調 Op.36(1931年版)



また、今回は、中国から11歳のWang Yijiaさん(第5回若いピアニストのためのショパン国際コンクールin北京第2位)を迎えて、未完成ながら大きな可能性を感じさせる演奏が、ソワレの部に彩りを添えた。

Wang Yijia(ゲスト)

シューベルト：即興曲 変ロ長調Op.142-3

ショパン：バラード第1番ト短調Op.23

ソワレ部門出演者

(全音源をホームページでお聴きいただけます。 <http://www.piano.or.jp/report/40th/40threport1.html>)

Wang Yijia(ゲスト)シューベルト：即興曲 変ロ長調Op.142-3、ショパン：バラード第1番ト短調Op.23

水谷友彦(D級金賞) ショパン：スケルツォ第3番 嬰ハ短調Op.39

水本明莉(E級金賞) シューマン：アベッグ変奏曲 Op.1

久保山菜摘(F級金賞) リスト：エステ荘の噴水

生熊茜(Jr.G級金賞) ラフマニノフ：練習曲集「音の絵」より

Op.39-3嬰ハ短調、Op.39-6イ短調、Op.33-9嬰ハ短調

鈴木美祐(G級金賞) ドビュッシー：前奏曲集第2巻より

「妖精たちはあでやかな踊り手である」「ヒース」「交代する三度」「花火」

前山仁美(特級グランプリ) ラフマニノフ：ピアノソナタ第2番変ロ短調Op.36(1931年版)



『ピティナ合同連絡会～審査員・アドバイザーノ支部・連絡所・ステーション』開催

2007年3月29日(木) 会場:ホテルニューオータニ

ピアノ指導者の資質向上、ピアノを通じた文化の振興をめざすピティナの活動は、会員約11,000人、全国300ヶ所を超える支部・連絡所・ステーションの人々の活動によって支えられている。今回創立40周年として開催された入賞者記念コンサート、NHK交響楽団とのコンチェルトの夕べコンサートの翌日3月29日(木)には、各種の合同連絡会が行われ、全国各地から熱心なピティナ会員・実施事務局担当者が集合し、活発な交流が行われた。



ホテルニューオータニの2つの大広間を1日借りての大会議は、午前中は、コンペティション・ステップに審査講評やアドバイスを贈る先生方による、審査員・アドバイザー合同連絡会。午後は、全国各地でピティナの運営を担う実施事務局の皆さんによる、支部・ステーション合同連絡会。合間のランチタイムには、総勢600名が着席しての昼食を兼ねた親睦会が開かれた。



先生方の活発な意見交換が行われた。

福田成康専務理事の力強い開会の辞で1日がスタート。

アドバイザー派遣委員長、林苑子先生によるあいさつ。「盛りだくさんの内容。モルト・ヴィヴァーチェでまいりましょう！」の一言で、会場に和やかな雰囲気が広がる。

コンクールやステップでのアドバイスで心がけるべき大切なことは？過去はピティナの参加者、現在は審査員・アドバイザーを務める先生方や、今の参加者たちのコメントを集めたビデオを見ながら、改めて重責に思いを馳せる。

グループディスカッションでは、各地での体験談や、自分の生徒がメッセージ用紙をもらったときの話など、「少しでも良い審査・アドバイスを参加者の皆さんに」と先

午後は、支部・ステーション連絡会。ステーション育成委員長の杉浦日出夫先生が開会を告げる。ステップ・セミナー・広報などの最新の話題について、全国の実施事務局で活躍する先生方自らが基調プレゼンテーション。貴重なデータや豊富なアイデアに、真剣に聞き入る。グループディスカッションでは、全国各地で行われている様々な運営の工夫や広報のアイデアが交換され、非常に有意義なディスカッションが大広間のあちこちで展開された。



基調プレゼンテーション



グループディスカッションの様相

